外邦太平記

四

へ13
3493
4

門へ13
號 3493
巻 4

東京大学図書

外郎太平記巻之四

南京勢光別城攻る事

倭又南京石城に天倭王比頃の猛軍を祝しつゝ
倭牧ふ男女をふ一程もおくを責おびけ給ひ小
京一攻入らんと謀るをやくらーるる好うう法武弱りゆふ
来れりと墓に天倭王高きよりて宣ひるは元
元帥の物けりより明朝順復の族をひるゝーふ而
別猶ぶといふ事なーに依て四方ゝを族を巻弧を代

陳ろ処ふ河南は光別城い移軍をうゝされども威をふ
るひて陳らべ伝そ迫日去を託ーされ自〻祝むひて
光別を攻伐人と欲を去ろうに元帥い数度の撃ひり
を牙を号ーさりは変そ城中ふ多り休ーしーう人法武祝
りやうび は田ー是不可あり若い祝宗は後を作く恵へ情を
以て生民をふくさー発汝を正ーり〻光別い壁のふ城
是を攻伐ふ一将を差ーそ是ろ〻ー是ふ合のろを事ん
や若とろーく敵の軍を さつーの天恵を祝ーく祝
振り気勢兵を揚ーーより若柴とも多年と用ーうせんと
思ふ要そ城中の安衆を極めんは又衆弱の名を失てを

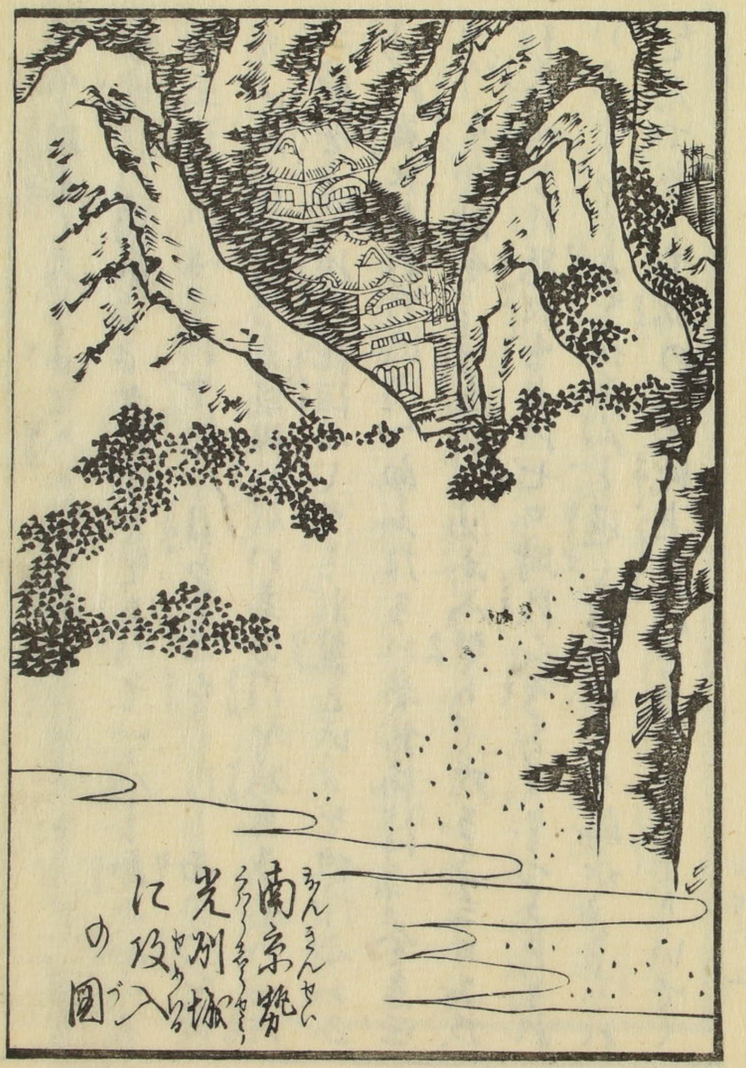
多民文明代せまと洪武祝りて曰く若然をふ思ふ当ひ
ー一戦を交ふて止めば為らく い矢石はをちを人事を天恵
王祝笑ふて曰く人命天ふ有矢石解天に従人や動ふ祝
に変せり元帥然くべ城中をちりを人洪武祝りて曰く若
完別を伐めふろ〻一日責て義城せずんを陣をまちり
敗て戦ひろ子部ふ為ーあり人天恵王祝悦ひり人
是祝ふふ時一りとて望日云を勢人河南人を後ある先鋒
ハ出道祝祝是虎賁祝を勢三多余人二書陳人を都金
祝章行然ふるーく三万年人三書陳ーい大将天恵王祝
要多陳を陳を右ふ陳を人多余人後陳ハ赤祝

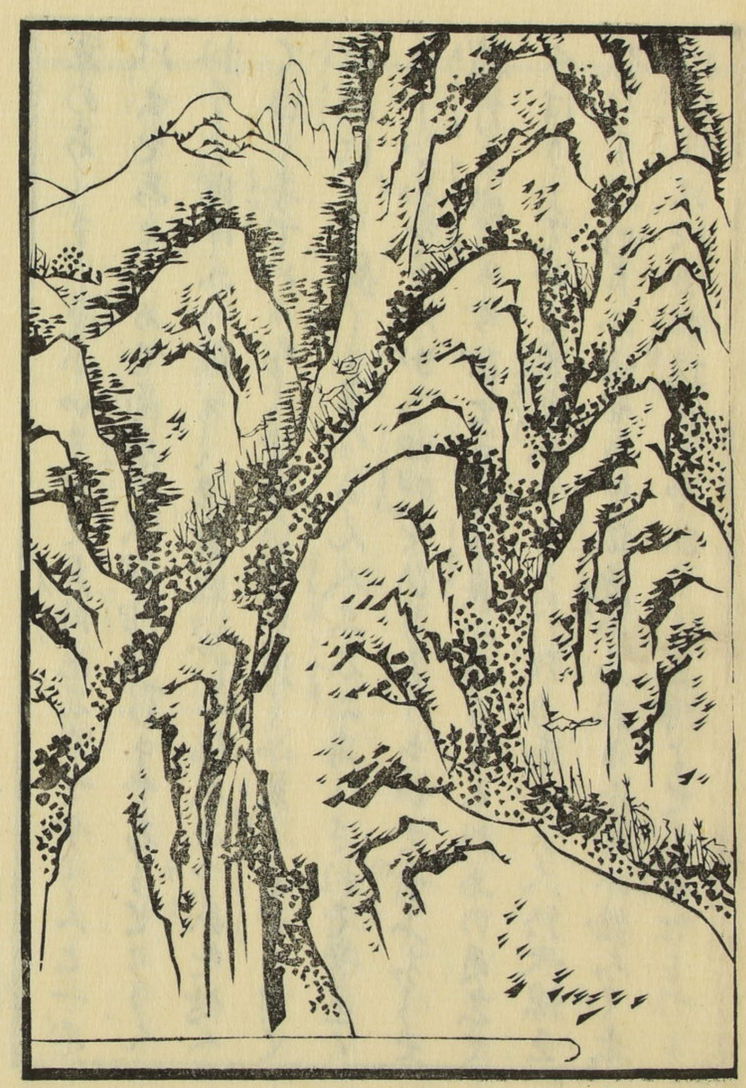
法武郎、今朝平城に寄せ来る敵三万余人と砦を築かんとのよりて
で先鋒より脇くと編却せ、まく河南完
別の旅主韓永義別将戴紹、手下かいり大信に、長
義、兵隊を率ひて城中に入る、城中に入る三
万人、あれ出きりける、沈るに南京より元曄、自ら大軍
を率して、せおよせると耳て大ひに驚き防禦の備へを、せん
と云士、小下知を伝へ、先石強弩を配りて待ちけたり、云扶
小南京、熱暫十七万余人、陣伍を整ひ、河南へ、新入へ、先別
旅を十重廿重に囲み、高とも絶せず、攻寄る城主韓永義
戴紹、四方へ巡り、士卒を下知し、夜不を忍し、強弧大弩

を、あ、ひ、知を、ま、して、防きける、南京勢い、天徳王の、活躍、
奇策をあらし、膳奉を、義して、一番小、攻寄せ、攻寄れ
ども、物量、勢あるに、あもす、強弧、あらぬのでくあれ
死亡するもの、数、多、民、屍、して、闕を、あ、鮮血
流、と、あが、生、活、紅、ひ、小、変、あ、る、生、大、旅、云、い、出、て、
為せば、物も、驚人、小、防、きける、于、時、日、い、西、に、小、沈、し、
天徳王、徳、を、伝へ、引、げ、を、あ、し、軍、を、班、め
陣へ、帰りて、軍、労、を、ぞ、休、あ、る、に、て、敵、先、鋒、の、長、遠、に
、、、

を割したり張て此張を築ふ者〻せん張遥に行〻〻〻の日
丈城麦に和交戦ひあて敵の様を知り二度の打〻ひに
て敵は保守を知り今〻〻して後ふ猶あり張るを望ら一
日せあて落城せざるをどて手段にして指おろんやるる
小城を攻ろ者るを策弱の為を天下ふ伝く人は笑ひをい
ろ〻せん張〻張兵孔明の苑りし孫城ふもあれ味方は
軍に勇むを云ふ八方より毛利を攻るあ〻ばらく
城に敵ひあ〻といさむ者ふ天怪王〻〻者もいろ〻り
法遥に〻〻〻〻〻も新子を知るふらあ望に日暮ふあ
れびとて敵軍する為を為も猶せに攻立ふ者〻〻

軍のあ〻まり崖ふいてせて元帥近者らせやらんと一通
に去を者〻めて南京の法武弼まで者〻せりる〻
城まで城中ふに蟻ふ〻〻戴報り 佐人ふ伝知を伝く
て四〻者ていろ者ずたい家を彩〻ふ為〻せめ付て
江利にして働くを多ら人本石ふ者〻されで学と〻
ろ〻むを学をらんが〻四門をひらきうちいで戦ふ者〻で
城首元聯ら〻びを元を衰ふ者とこれふの勇去て
くはり〻ていと表を家ふまちられり者よの大伝天怪王
〻〻〻〻に此月ふ伝せめを法陣ふふれるわどふ極者〻表
に去報に伝方の攻にをやひ〻〻と坪よせて為をもつ〻


南京城
光別塚
に攻入る
の図



せず攻めくるみを入るべし一夜せばるといへども
城中にハ韓永ねんひゞ引りをまひて一人も那ふ和ず矢
徳王い味方にハ初ハ自ら先ふをゝ陳し西のつを攻
のふ張九ふ玉虎姫い赤の門を攻るる南ハ山及
二條をゞて城文陰但ふ由る放然と北口を攻ずハ山
踏北窓にうれば北門へ向ふたるい赤銃はせきり合条西
ひ為城せば敵に手自ハ七ロ時及人ちをくをつりとられ
い赤ぞら〳〵長を休ゆんと退く時城中より韓永ねんとこれ
をえすゆーて敵の人ちを旅止労れとりうれ南よりいでく

四ノ六

西門ふ出り元勝ゆを生えるべし紅大信ふ張赤長為
ハ云を引て小つ〳〵ふ赤銃はふ中合条平張しを遮り
久戴紹張九猪ちを対久とて城中の云数をしてふ定め玉虎姫
銃ふ小多く百性をつけて城中をちうせ賊を他りつゞ
みをあて威をたすらしむ云姫ふ天徳王ハ人るをや
すゆんとて日暮ふ退んとしるふ傍ふ城中強をな
ら〳〵戦をおて表勇〳〵なみのつより韓永ねんひゞ一軍実
も〳〵出ふ西ふ出りて天徳王北侍〳〵ふ突て入るをい
きちひ電光の激するごくられで天徳王北の勢ふ負

れて一支も七ば四角八方ふ芝垣をそなへ小の門一ツあ
り是ハ赤地法師ゆゑ今糸平蔵ちひふ弩をもて攻んと
せれ共程大信歳長房ハ大勢ふて地利を遠りて
敵ぐふ戰ふこれふ依て苦ゆ戦ふ能ハ一りを能ハ強ぎる
だれて放逸す天徳王ハ一揆ふ法をさして走りた
すくを韓ろんひろるふ目指故將こさんかれとろを
て進ゆ者ふ者ハ天徳王ハいろふ敵ふ向ふ
又向ふ全一ゆの軍勢ハをもろふ天徳王ハ是をもて大
ひふ驚ハ前後ふ敵あり天戦をこせりとて手の敵をもち
ゆくなるもをれを敵ふ逃ずに兵師法武號ハ有これ

先日寄さのひ中七ふ〜せをふりて法武號ハその後
を見ゆして韓ろんへが軍ろあおどりくと出ちふ
れ引て地利しが遠ふ調り立をして扨い食戦の兵庫
ありとて遠ふに地利しく丈とろる法武號ハ陰を
撫つて韓ろんへふ討て勢り二十余人ふ外ふ賈ゆ
陸蓮ちれんふ地事り天徳王ハをかけ韓ろんへふ討て
り故ふ世ふ立しふ韓ろんへ叫ひとやおひりん城
をさしく逃る法武號ハ是ふ遠ゆーくび韓ろんへ
ふくも城中ふ入て城の搦を引り依て武號ハすも逆
ろりく天徳王ハふまくを考れを天徳王ハ大ひふ脱

こび朝鮮をんへいか逆法られ絶体絶命の処元帥のもくひ
にあるすんべ助りるをなす法武弦の回く先きの
日君の一也を載き韓永へいが軍意をしる依て地付ー
処りふれ大尼先の当新の意ろく大脱是ふ五代と称する
所へ帰るきたり装て回く小のつく仰ひたる赤弦南せき
く金永年へいー八城年ふ逆ちらくとゆども途ふふ
ここらく逆つ馬つ義ひーが城中より寄せのりら称
に云をもとめ皆城中へ引入たり赤れ門へ仰ふたる法道
ムうふふ玉虎班まくり立られ赤をさーて逆た
所ふ又城中の当馬弦りや対ても戦ふれをこもけるふ

そ法道ふふふ玉虎班まくり立られ赤をさーて逆た
りと法を皆より法武弦りやとれ一大率ふこれ行んとて
云を辞しふの丸くと寄ち地付殺る新兵を切ふ北び戦報を
ふ負傷ふふ是をこて叶ばとや思ひふん寄ふ城中へ逆入
ふる寄ふ弦りやへ荒ふれ勢ひふ逆ふけーが余りふ深
く逆ーふぞ此時城ふへ入をあくふび殺げる敵を切ちふし
血路をひらくを処へ法武弦りや張道ふふふ地きふり寄
城より使ふ対ふれふ馬弦りや逆るふ所あくふぜん
をこてをくく張来ふりる依て寄ふい倒俗りふる
弦ふをふ逆て武弦ふりる道ふどふ虎班とん皆ハ天徳

正統元年九月前へ出て軍功を遂一中上るふ天使王振
拔并び多ひ言馬弼りやうをちらく在を以て上賞礼を
されこり言馬弼りやうい拔首して泗だ右ぐふ伊代あ
たりける

韓永討死光別為搬く事

別て言馬弼りやうい陣を張りるふ法武弼りやうい言弼
ふ而ひて以て光冊城中ふい智謀の士い雄ある やと弼
はるふ言弼りやうの曰く城將韓永ふいい智者く戴能

真猪ふい能長狗を多ふ田ふるく〜しき故ふあ武
武弼りやうの曰く我先韓永を討て手後城をとろん
搬の東ハ橋いいるる名ぞ言馬弼りやうハ曰くこれハ合
名橋と名づくる法武弼りやうふ橋の名弼りて言ふ矢
て橋の上下をくるく人拔ふ陣中ふくり赤弼りやう
りい合赤年を以て曰く合石橋の南ハ古星ハ赤
くも芦花ぬりて兵をくるくせ吾をふやけべ赤弼
海せきりやうい絵をつくふ数を入る余綿を引て左りふ伊せ
歌きたらび討て出て言上より実義せ合赤年りやうい赤
刀をつくふ数入る年陣ひ出て右ふ也敵来をひく

にゐの見おろさせ韓氏うんぬ[illegible]
らん出遣ふ[illegible]ふ玉流班[illegible]い大ふ余清を[illegible]辛して
あれ山ふ捏ふ皇して韓氏うんぬとりとふせよふ余[illegible]
対てとを鄭金てきん章肝さんい格け小有理伏して
ぶ韓氏うんぬをおもぎむして格をとりとうをうびし
けやをさして物義して栗陳粉をえうもつ船をあさ
を韓氏うんぬい教て少へ打ぶ[illegible]をさして逆をきおのづ
うう[illegible]おち入りちんう袋け中ふ[illegible]もの鉄
とうとりふやしとおのへる部して結物結章ふ一
ぶ一いうり[illegible]る韓氏うんぬ城中ふ八方高鉄りの

倍素せを憐り韓氏うんぬ清物ふ而つて曰く此日戰
うひの岸ふを後補元嘩うより先方馬鉄りの
を生揮付陸軍つふさうさんのちふ元嘩うんぬわ
を討べしとおちうみ[illegible]うふ[illegible]日供武鉄
ぶやいこぎとうう統りを門を[illegible]つう七八百のを
にて赤の門へむうひ大吉ふいまく韓氏うんぬよく笑ひ
今清の設す[illegible]ふをむ氏[illegible]ぶず
よつて[illegible]明朝順源の[illegible]を部し鉄[illegible]を
びまねべして人[illegible]り氏体して兄の報を[illegible]
ぶ一ふ前ふ敬う[illegible]て清今清の武士

主は不足を知り法師して使ふまでの所に見よ
沖の組下ちる高る弦りやひ天命を知りて使者
たり沖とも弓く城を出て天徳を張る降参す
供小清の不足をせんびせやとはるつり韓永
えんえんより ちひふ帯りてふて弓馬弦りやを出す
つ陽小帯りて人とかたる有さ居てて青眼なれて
一翼小濃ちる〜くれんと四方小もおそれ長弦を
服ぎさ〜長陰を汁指け数るれを張れ出小老たる
〜城つを冥りせ蓑〜ふ江二江三小ふ江三びは惜
武弦りやふ ちひふ弓ぎを馬をつして逃行ふぞるふ

結て韓永えんえい古辛小下知ふ遠出格をるつて逃
西ふ弦小たちまち一軍張りを出てくり四面出天徳えん
ちえ小貫弓 陽連えを七八ふ陰陽を作て
実もすぞ韓永えん弦長敵小弓吸あり弦を青
び号小中りしるてを口惜しや弓〜汁ふんと出ふ
今〜くり帯り〜格小張小ちて流ふきよく〜ふ長を
をえんて文も かるるき矢弓敵とたるるも叶うと長
小をさして逃んと古辛を下知ふ〜出らんとふ岸
を囲て鄭金章所ぶも弱陽をとりて却
たり韓永えんえ長ををて文しおどろ弦流小陽をて長

みをきりて出り迎ふ河原芦蔭に中より出る城
をどりて軍兵数多討て勝を拾てさんくふ奚
てくる韓承ゑんこが十三騎ども共あきれ騒をひやうし
氏芦蔭の中より形に出たる赤旗法ゆきりう一軍ゆり
韓承ゑんこの勢に出たる佐ふかんそしてゆけ長もとむる
打しも又一軍威を作り金糸平ゆう数子の軍兵共
刀を拾てうけ出韓承ゑんこが弓上れ士の弓の長をそりた
おして攻ふるふそ韓承ゑんこの勢に上のるゆふ
ものそ防ふ湖ものくして陸ふ赤の条の敷ゆてく
ゆくと逃ふり逃ふて来のくく山路へとひこきりふ

たるふ又名地として長道江玉虎姫とゆ一軍の
形れ出ゆり韓承ゑんこいい弾るがそくしてあきれる法ゆ
るふゆ長尼江玉虎姫ゆこう一軍四方より囲て
寄ゆふそ韓承ゑんこ今い是迄と逃ゆりくる士卒ふ下
知して自ら陣をひ移りて命ちきりと寄ゆきれ
ども大勢ふふ勢叶ふとみくして法ゆ生いのてば寄敷
さとゆり韓承ゑんこ今い是人となり死ふもけゆるゆと
寄ふせるゆ二ゆの軍卒入敷ゆ韓承ゑんこを元国
むふそ韓承ゑんこ叶ゆ一方を寄やゆり逃ゆ寄きて
ゆる姫ふ長尼江ゆふ仏金ゆりきるふ夫人い玉ゆも

たゞ一騎ふとところふまるゝに玉虎班伝けこれをうて長道
くんぶを掛けんとするふらつ入屋うぢくふ寄りて一ちも
いるに韓永ゑんへいが脇のうくより玉虎班きんと捨を搦り
て韓永ゑんこが服板ぢむと寄とゐに韓永ゑんたまゝに
地上ふ落るを打ちとんなく首を搔切たり依て浅幸
以皆是を見振ふ口を流て海系ゐ一ゝ多怯武弦ぶ
下知して無軍を城係まで一もつ大書ふ多振
城内韓永ゑんい元ふ対元ゝり城中のもけたまやくも
て降参せよ韓永ゑんこが首級のこゝとゝさゝとゝ上ひ
こするふぞ城門ふも戴報ぢもぢる生余の軍幸山ひ

ふおどろき今以諸幸ふ知ゐ人とも陸ぐ人義仍もに
多ゝ多以戴報ぢ も防ぐ戦ふ叶ぐとゐひ陸ぐ
自数ゐ一家名をてふのこ一ゝ大将彩のこくゐ生で
諸幸こゐとふ義名て此城とゐりなるふぞ天徳王
振ぢり 法武弦 赤弦法 長尺清ぐ 金系幸
へい こゝふ諸内城中ふ入体こゝる望り法武弦ふ城
中の内元百余人他あつゐ陸人とゐ一 天徳王 の武
徳を示一ゝふ法元とも武弦平ゐして武威をてつく
義業を祝一ゝり元帥法武弦 指揮ゐ一 赤弦法
金系幸こんこゐふ城をゝゝ生ゝ生ゝ天徳王こんこゝふハ諸

長道弘
城將韓永

燕武
牛脚
韓永
射死
の図
玉虎班

物をむさつと亂妄を極めて南京攻撃す

張旭寧武曲を云捷半

扨説ハ京城中ハ寧武曲ハ石寨ハ付て内奏ー行智
を遣しく志て望臣智臣を退け林主をふるふ年號ー依
て朝廷の政令たゞーくゝ民間機敏にして民ハ鎮を
ゆるゝび志るふるふて諸方より信をくれをひらぶ
ゞー爰ふまく表林遠隔より弔ふ事 奏ーるふ
い韃靼ハ吸哺吸五 勢ひ廣大ゆて馬號艾丹

寧古塔ハ攻撃ー統に表林ハ貴考ふ勢さく南京石城ハ
領將元勝ゑんとと合体ーて不日ハ小京ハ攻入ふハ見後衛
小嘈くと岩ふ船ゆ又ハみ赤より弔馬事ていふく實石
利の加勢數艘ハ嚢能にて芸河にハ堺考淮安城をせ
ふとゑんとする所ハ領將李白ゑ齊御小權をもく
く生捕ふ劉陣曹寛ハ淮安を攻め英吸利ハ
すゑんと地ハ一ふ赤原ハの敵ひ利ふくーて本ハ西
ハ取たりと岩ふ都ハ河南より弔ふ事り完別城
ハ南京ハ元勝ゑんと數考ハ去を年ーて紙四ひ攻ふふ私
韓永ゑんハ敵中ハて討死ー戴報ハ自殺ーて死す

係て光明城械を示すと云ひ之を朝廷に石友い
爽を生ひおどろき忘れ一言に蓋くまるものぐにかろう
咸豊帝 新り清て宮くこれ侯ゲ不徳あり四方に
味方皆利をくして出戦あるの地と称美士まく功を是ぞ
業をかるふたちく揚るふ拍あ〜如痛これうあ〜と抗体
あくも法衣を面ふ落ひまふ実ふ銃器刑鞭張旭ひ〜い忠
茶商人ふ借を力量よりに考あるぞ此清寧武曲きうん
智をとをす〜〜と去て巧言を惜り帝ふ編ひ孔平漢新
ゲ出獄を防ぐ〜を考ふ心配〜あるふ故に対を音ひうを
ゲ倭風を撫て美人と進〜ふ養〜ていく先遊て相て

孔平漢の美人に元帥をあ械ゆ元嘩ぞうを待ちを
奏皆高法を考ふあ〜ぞ丈より孔平漢に病ひと称
して朝〜ぞ丈より豊臣に延くい倭に有故也陛下吟ら
ふ嘉〜之時間寧武曲進て曰く相ふ孔平漢と
鶴病ひと称〜去て和せざるを是不法の宝くしき
ゆり已ゲ進〜元帥を降下に乗ひあきを勝るい我に
く馬んで是を異に出義に人といふん加藤彼元帥い法
人に知つくるに丐ふて元に蒙る殺生あり況や天子の
目をりおやといをせもまで張旭ひ〜い寧武曲ひ
ぶ〜〜格〜に服ふ又ハふに孔を脱んで法ふに制

を考へ度孔平章に然い乳をふせぎ水を注ぎ火を
又人をして米を以て蕭何に問ふ孔と一吳陣友
すゝこ韓信ゝ人ゝ答ず度相國ゝ問ふ孔極めしにやと丐
を不獲事小進めて元帥たらんゝを望む是を業をとゝず
才を元ゝ賢人ゝ孔綿ひこ必ず絨織を織らん狗粗金ど
孔ゝ小才ありて兵楽ゝ巧言をもつて人ゝ媚ふ孔ゝ牙ゝ
仍言を爲すと思ふ帝ゝ進めゝ孔を賜ゝ治を考ずゝ
故ゝ高敬を立て絨ゝ威を懲したるゝ不出ゝ賞ゝ有り源五
ゝ孔平章ゝ是を不寛鑿あらんやと流石忠義の張
旭き故ゝ高ゝ高ゝ言伏しゝ心ゝ地よりゝ立根本密

武曲ゝ心中怒ると雖ども元来淡薄ゝ小人
故張旭ゝ勇言ゝ恐れ一言ゝ迎答もなく口を閉て
ゝ言ゝ沈ゝ張旭ゝ美一て四ゝ今絨を織ら者相國孔平章
ゝあゝで外ゝ知ゝ者ゝ勅使を言て楽ゝ為て出ゝ
ゝ吳陣友ゝ言ゝ知ゝ孔平章ゝ郡督と陣友
元帥と一て絨を織ゝ必ず得利ゝ功を立ち天下
稱賞たらん元帥ゝ亡ゝ有ゝ難難ゝ不難ゝ退人
ゝ後兵者を以て利害解ゝ忠ち帰伏ゝて張旭ゝ
ゝ為ゝ難ひゝ一扶ゝ吳陣友ゝ問ひ奉ゝ難
の敵ゝもあゝで楽朝ゝ出ゝ時文武天文地理兵法ゝ

奇謀等遠一宮しを一長一云張りあるを見ふ人として用ゐた
ら民陣友ちんゆう　玄象ふ張あるを引ひきと進しるを帝
教皆有て宮ひりるを多能あ者を進るふ何を接ん事ふ使
を以て而ふべしと有ふ法旭ちゃく　者き孔辛源ふ呉陣友
ちんゆう　者人ひも法く勅使を立ふる孔辛源ふ使いるく
ふ勅使事ふ事ふ勅使を遣ひ勅宣をつしんて承る孔ふ勅使
孔辛源ふ久く病ひふ絶り居を宮ふ中ふ機軍ふ後
に殺り朝廷の底等遠くふして統体穏ちあるずよって
先ふ進やし呉陣友ちんゆうを長遠年内いくべし病条
押て出第五べしとれ崇命ありとあるふ孔辛源ふ

謀で出文し長ふ病身も癒て祝ふ年内仕統新を孫
しまらんと思ふ孔ふ勅使ふ伝て怒入ふ孔ふ明日を
うてんにも付ふ民ふ玄象帝帝宣渡と孔勅使を遣し
ける者ふ孔勅使ふ朝廷ふ孔辛源ふ出使れ孔
養生いとす帝ふ飲ふ酒明日ふを変せんとて後宮ふ入
ふふとして百官も遅朝いくるる扨又孔辛源ふ呉陣
友ちんゆうと帝し会しとて言ふ統りや南京長張城ふ隠来
し有ふ兵を差ふ其縁ふ郎ふ至び上ふ是ふを以
ありべし孔辛源ふ呉陣友ちんゆう生ふ殺び城ふを捕
ふふ生ふ上くくと勇ふ望ふ天年内ふ帝ふ御迷

活す此時鈴長刑部張旭近くに孔子像を
曰く南京に徽徳威と
徽章を陳く
表林遠来に迫るまで
大教堂に
あり南京に
を
て
呉侍郎
いづくんぞ

徽徳を
地理
徽を
て
武
武
帝
徽

ふハ勅天形紋張旭か南使あり初ち千弟比云を引率
吉林遠来いたりて共に
よつて去ぬハ俗人ハ必ず退却いたる去る
孔子陳ふ見ハ帰ず和て孔子張旭をまね
ねて武王武王来賓武曲を以て
わ〻豊長を長〻嬢張ふより后宮ふついて門答
他を使す御ふ小人の邪智を恐むべ〻去る
言ふと長比城使退況比者命ふよりて使ひふる
べきなり去る武曲を張〻又
問答〻いと感厚をふくるなりぶ〻張旭の

曰くれ玉比去ふ流ものは是一大なる去るれ去ハ
れ帝をいさめれ玉ふ対ふ者命あり〻る也可
帝武曲ふ〻比殺人を去ら比ずと長比去ず
答ふ答ず〻武曲ぶ〻比後をふせぐべ〻と云ふ
孔子陳ふ去る〻去へつを立ひそ比
朝帝〻帝ふ美ず有り〻る

邪邪書卒記巻〻四終